

2. 事業の目的と概要	
(1) 上位目標	首都キガリの人々の雇用および収入創出の機会が増大する
(2) 事業の必要性(背景)	<p><背景></p> <p>1994年のジェノサイドで、人口の一角にあたる100万人ともいわれる犠牲者を出したルワンダは、政治経済面で壊滅的な打撃を受けたが、各国からの援助、健全な経済政策により復興を遂げる。しかしながら貧困率は44.9%¹と未だ高く、農林漁業がGDPの3割以上、労働人口の約9割²を占めるものの、職業別貧困率では農業が一番高い。</p> <p>ルワンダ政府は、経済達成目標を定めた「VISION2020」および経済開発貧困削減戦略(EDPRS: Economic Development and Poverty Reduction Strategy)を基軸に経済政策を実施しており³、その中の柱の一つが、人的資源開発および農業依存型経済から知識ベース型経済への転換である。農業以外の仕事に就く事での貧困削減を目指し、ルワンダ国内市場で雇用されるスキルを持つ人材、市場で競争力のある人材の育成に重点を置いている。</p> <p>女性筆頭世帯がルワンダ全体の27.7%を占め、女性のエンパワーメントにも国は力を入れているが、その6割近くが未だ貧困層⁴に属している。16才以上が就く職業のうち、農業は男性61.3%に対し女性81.9%⁵であり、その中でも無給農業従事者の77.9%、無給非農業従事者の77.5%⁶が女性と、依然女性が男性に比べ金銭的安定や社会的恩恵が厳しい状況にある。</p> <p><洋裁技術のニーズ></p> <p>現地職業訓練校や国際NGOにより、基礎的な縫製訓練は行われているものの、半年程度と短い期間に限定され、かつ足踏みミシンによる訓練のため、ニーズの高いシャツやスーツなど高度な洋裁技術を要する技能習得までには至っていない。結果、訓練を終えても実際の雇用には結びつかず、失業状態が続くという状況が多い。</p> <p><Made in Rwanda 製品のニーズ></p> <p>中国やウガンダなどから低品質な中古製品がルワンダ市場に急速に流れ込む中、品質やデザインが優れた洋服は、外国人デザイナーや経営者による高級品であり庶民の手には届かない。自国民であるルワンダ人のプレゼンスの低さが、市場における人材および商品両面の開発の妨げ理由の一つでもあり、政府としてもルワンダ国内市場で競争力のある製品の開発を優先課題としている。</p> <p><現金収入アクセスへのニーズ></p> <p>都市部で暮らす人々にとって生活するための現金収入の重要性は高</p>

¹ National Institute of Statistics of Rwanda, “The Third Integrated Household Living Conditions Survey (EICV3)

² 外務省

³ 外務省

⁴ Population Share and Poverty Incidence among Potentially Vulnerable Households, Rwanda GENDER ASSESSMENT: PROGRESS TOWARDS IMPROVING WOMEN’S ECONOMIC STATUS, by 2008 African Development Bank

⁵ EICV3

⁶ EICV3 2007

	<p>く、高度な洋裁技術習得により、仕立屋開業、ブティックや縫製工場への就職、起業など、さまざまな面での雇用、収入創出が期待できる。</p> <p>上記背景やニーズを踏まえ、人口の約 83%が 40 才以下⁷という若い世代が圧倒的なルワンダで、この国の未来を担う若年貧困層(主に脆弱な女性層)を対象に、市場での競争力が大きく期待できる日本の高度な洋裁技術習得訓練を行うことで、収入、雇用創出への道を切り拓く。高品質でデザイン性も優れた洋服製作が可能となれば、市場での競争力が期待できるのみならず、これまで商品購入において選択肢の乏しかった一般市民の消費環境改善にも繋がる。ルワンダの人々による良質な洋服の開発、生産、販売までが実現出来れば、自信やモチベーションアップに繋がるのみならず、自国の自国民製作製品による内需拡大の一步も踏み出せ、将来的には輸出を通じた貿易赤字の軽減という相乗効果も期待できる。</p> <p>本予定事業は、女性脆弱層の底上げを草の根レベルから行うことにより、2000 年、189 の国連加盟国により採択されたミレニアム開発目標 (MDGs) 8 つの目標の中の、MDGs 目標 3「ジェンダーの平等の推進と女性の地位向上」および、MDGs 目標 1「極度の貧困と飢餓の撲滅」の中の具体的目標「完全かつ生産的な雇用と、女性や若者を含め、すべての人々のディーセント・ワーク (働きがいのある人間らしい仕事) を達成する」という双方の目標達成にも寄与するものである。</p> <p>ウガンダ、タンザニア、ブルンジ、コンゴ民主共和国といった情勢が不安定な国に囲まれているものの、現在ルワンダはアフリカでもっとも安全とされ、欧米からの投資も呼び込んでいる。周辺諸国の中でも治安がよく政治状況も安定しているルワンダへの支援こそが、その有効性が最大限に期待出来、地域の良いロールモデルとなれば、東アフリカ発アフリカ全体への平和と安定の波及という大きな効果も視野に入れられるものである。</p>
<p>(3) 事業内容</p>	<p>■ターゲット：首都キガリの若年ユース貧困層(16～35 才)(主に女性)</p> <p>■事業実施場所：Gacuriro Vocational Training Center, Kigali キガリ市 ガチュリロ職業訓練センター(公立)</p> <p>■全体</p> <p>首都キガリ唯一の公立であり、職業開発庁の管轄であるガチュリロ職業訓練センター内に、既存カリキュラムとは別に、独立プログラムとして高度な洋裁技術習得訓練コースを新設。電動工業ミシンを投入し、独自カリキュラムによる日本人および現地洋裁専門家の協働による洋裁技術訓練を実施し、習得した技術をもって高品質でデザイン性の優れた洋服を開発するという双方向のアプローチにより、ルワンダ国内市場で競争力のある人材、製品開発を行う。</p> <p>1 年目および 2 年目は、高度な日本の洋裁技術習得訓練および made in Rwanda 製品の開発実習に特化し、3 年目は形態を「プロダクション・ユニット」へと移行し、習得した技術のさらなる向上を図りつつ、made in Rwanda 製品の開発、生産、販売までを行うことで、</p>

⁷ EICV3

プロダクション・ユニットそのものを機能させることを試み、事業終了後はプロダクション・ユニットが自立発展的に、地域の人々の雇用機会の増大および収入創出に寄与することを目指す。

■1年目

(ア) 工業用電動ミシンを投入する。

(イ) 高度な日本の洋裁技術習得訓練を実施する。

・工業用電動ミシンによる平日4日、午前、午後各4時間のコースに分かれた、日本人現地事業担当兼洋裁専門家および現地洋裁トレーナー協同による10ヶ月に渡る洋裁技術習得訓練を行う。

・現地調査時、洋裁・縫製訓練において、生地調達の厳しさから紙を使った訓練光景が見られた。しかし、紙を使った訓練と布地による訓練ではその習得感覚は全く異なる。当会は日本全国から寄贈された正絹の着物を訓練に使用する。これまで途上国において着物地を使った洋裁訓練を数十年に渡り実施してきたが、素材が繊細で扱いが難しい正絹の着物地は、裁断、縫製に高度な技術が必要とされる。そのため着物地を使った洋服制作技術を習得することが出来れば、その後はどのような生地でも縫えるようになるということがこれまでの経験から実証されている。製図から裁断、縫製、検品に至るまでを、古い着物地に見られるシミやほつれなど生地の難点を省きながら、最も美しい部分を活用しつつ、世界的に通用する品質の高い洋服を作り上げていく技術習得訓練を行う。

・また、洋裁指導責任者が期間中に渡航し事業内容を確認、日本人洋裁専門家、現地洋裁専門家2名とともに2週間の基礎力定着実習も行う。

・カリキュラム内では、着物地による9アイテムの洋服、現地生地による4～5アイテム洋服製作を予定。

(ウ) 現地洋裁専門家へのTOT: Training of Trainer

・訓練生への洋裁指導実施前に日本人洋裁専門家による1ヶ月間の現地洋裁専門家のトレーニングを行う。訓練開始後は、1週間のうち、平日週4日訓練を実施し、残り1日は日本人洋裁専門家による現地洋裁トレーナーの技術強化の日(TOT: Training of Trainer)とし、トレーナーの技術向上も図る。現地洋裁トレーナーは日本人洋裁専門家補佐として事業に従事するため、OJT形式のハンズ・オン・トレーニングにより訓練内容が体得できる。

* 上記高度な日本の洋裁技術習得訓練においては、訓練生一名につき、1日4時間×週4日×4週間×10ヵ月 -(その他講習約40時間) = 約600時間/年間の洋裁技術習得時間を想定。日本人指導者および現地洋裁トレーナーは、1日8時間(午前・午後クラス各4時間)×5日(4日+1日)×4週間×10ヵ月 = 1,600時間-(その他講習約40時間) = 1,560時間/年間洋裁技術指導を実施予定。

(エ) ミシンメンテナンス講習

日本人ミシン保守専門家を派遣し、資機材メンテナンスが、自分自身で主体的に出来るようにする。

(オ) ビジネス強化ワークショップ

洋裁技術習得に加え、実際の収入、雇用創出面強化のために、カウンターパートである職業開発庁協力による、以下研修を実施する。

① 市場調査・マーケティング講習

② 起業家講習

③プロダクション・ユニット設立講習

④組合設立講習

(カ) made in Rwanda 製品開発実習

訓練後半は、現地調達生地や「ギテンゲ」というルワンダの伝統生地を活かした洋服製作にシフトし、前半の着物地による訓練で培った技術をフル活用し、made in Rwanda 製品の開発、製作を行い、ルワンダ市場への介入を目指す。

(キ)三カ国語併記洋裁テキストブックの製作

訓練生が習得した技術の維持、向上を自立的主体的に行えるよう、キニアルワンダ語、英語、日本語によるテキストブックを製作する。

(ク)適切なモニタリング・評価の実施

事業開始後、カウンターパートおよび協力機関とモニタリング・評価内容を決定し、定期的にモニタリング・評価を行う。関係者全員が、活動・成果・指標を共有することで、それぞれのオーナーシップを高め、協力体制を強化し、自立発展性に繋げることを目指す。

(ケ)修了式および製作披露発表会

習得技術および made in Rwanda 製品披露の場として、修了式を兼ね、ファッションショー形式で製作披露発表会を行う。修了生には、洋裁技術習得修了証を授与する。また政府関係者、関係機関代表なども招待し、その成果を直接確認・共有することで今後のさらなる活動に繋げていく。

■ 2年目

(ア)高度な日本の洋裁技術習得訓練

・1年目同様、工業用電動ミシンによる、平日4日、午前、午後各4時間のコースに分かれ、日本人現地事業担当兼洋裁専門家と現地洋裁トレーナー協同による長期洋裁技術習得訓練を実施。着物地による9アイテムの洋服、現地生地による4～5アイテム洋服製作を予定。

(イ) 現地洋裁専門家への TOT: Training of Trainer

・訓練生への洋裁指導は平日週4日実施し、残り1日は、日本人洋裁専門家による現地洋裁トレーナーの技術強化の日 (TOT: Training of Trainer)とし、トレーナーの技術向上も図る。現地洋裁トレーナーは日本人洋裁専門家補佐として事業に従事するため、OJT 形式のハンズ・オン・トレーニングにより訓練内容が体得できる。

* 上記洋裁訓練において、訓練生一名につき、4時間×週4日×4週間×11ヵ月 - (その他講習約 40 時間) = 約 660 時間/年間の洋裁技術習得時間を想定。日本人指導者および現地洋裁トレーナーは、1日8時間(午前・午後クラス各4時間)×5日(4日+1日)×4週間×11 ヵ月=1,760 時間-(その他講習約40時間)=1,700 時間/年間 洋裁技術指導を実施予定。

(ウ)ミシンメンテナンス講習

日本人ミシン保守専門家を派遣し、資機材メンテナンスが、事業終了後も自分自身で主体的に出来るようにする。

(エ)ビジネス強化ワークショップ

洋裁技術習得に加え、実際の収入、雇用創出面強化のために、カウンターパートである職業開発庁協力による、以下研修を実施する。

①市場調査・マーケティング講習

②起業家講習

③プロダクション・ユニット設立講習

④組合設立講習

(オ) made in Rwanda 製品開発実習

訓練後半は、現地調達生地や「ギテンゲ」というルワンダの伝統生地を活かした洋服製作にシフトし、着物地による訓練で培った技術をフル活用し、made in Rwanda 製品の開発、製作を行い、ルワンダ市場への介入を目指す。

(カ) 三カ国語併記洋裁テキストブックの製作

1年目制作テキストブックを必要に応じて改定し、引き続き、訓練生が、習得した技術の維持、向上を自立的主体的に行えるよう、キニアルワンダ語、英語、日本語によるテキストブックを製作する。

(キ) 適切なモニタリング・評価の実施

1年目同様、モニタリング・評価活動を定期的に行い、必要に応じて改善も行う。

(ク) 1年目修了生のフォローアップ

1年目修了生のその後の状況を確認し、必要に応じて適切なアドバイス・協力をを行う。1年目修了生の中で、洋裁組合結成希望者には状況に応じて組合単位でミシンを委譲予定のため、洋裁組合をベースに順調に活動が進んでいるか巡回し、状況を確認・協力することで、相互協力体制を強化する。

(ケ) 修了式および製作披露発表会

1年目同様習得技術および made in Rwanda 製品披露の場として、修了式を兼ね、ファッションショー形式で製作披露発表会を行う。修了生には、洋裁技術習得修了証を授与する。また、政府関係者、関係機関代表などを招待し、その成果を直接確認・共有することで今後のさらなる活動に繋げる。

■3年目

(ア) プロダクション・ユニットを設立する。

プロダクション・ユニットとは、訓練修了生らが習得した技術を向上させながら、製作、販売活動を行うことができる場所を意味し、カウンターパートである職業開発庁も職業訓練校へのプロダクション・ユニットの設置を推奨している。1、2年目で洋裁訓練を実施した教室、投入機材を3年目も継続使用し、形態をプロダクション・ユニットへと移行させることで、実践的製作、販売という一連の流れを管理運営側面含め訓練する。また高度な洋裁技術指導および TOT も引き続き実施し、よりスキルの向上を図る。訓練生らの主体性なしには持続発展性は見込めないため、主体性や、自らが問題を特定し、解決を図ろうとするオーナーシップの熟成も図ることで自立発展性に繋げていく。

(イ) made in Rwanda 製品の製作・販売

日本人現地事業担当兼洋裁専門家および現地洋裁トレーナーが、ルワンダ国内市場をターゲットとした、ルワンダ調達生地による made in Rwanda 製品を引き続き、開発、製作指導を行う。

(ウ) 品質評価および販売会議

開発した made in Rwanda 製品を関係機関らと評価し、より市場で競争力のある製品開発を目指す。また販売網についても話し合い、国内流通ルートを確立していく。

	<p>(エ)1年目・2年目修了生のフォローアップ 修了生の中にはプロダクショ・ユニットには残らず、自ら開業、就職または、組合を形成する者がいることが想定される。そのためその後の終了生らの状況を確認し、必要に応じて適切なアドバイス・協力をを行う。1年目・2年目修了生の中で、洋裁組合結成希望者には状況により、組合単位でミシンを委譲予定のため、組合をベースに順調に活動が進んでいるか巡回し、状況を確認。必要に応じた協力を行うことで、相互協力体制も強化する。</p> <p>(オ)適切なモニタリング・評価の実施 2年目同様モニタリング活動を定期的実施し、情報を関係者で共有。また、持続発展性についても関係機関と協議し、具体的な計画を策定、3年次の1年間をかけて実行することで、事業終了後の自立発展性の確保を目指す。</p> <p>(カ) 製作披露発表会 made in Rwanda 製品披露の場として、修了式を兼ね、ファッションショー形式で製作披露発表会を行う。また、政府関係者、関係機関代表などを招待し、その成果を直接確認・共有することで事業終了後のさらなる活動に繋げる</p>
<p>(4) 持続発展性</p>	<p>プロジェクト実施地であるキガリ市唯一の公立の職業訓練センターは、教育省および職業開発庁管轄であり、事業期間内より関係各機関との協力関係を強化していくことで、事業終了後の着実な持続発展性に繋げることを目指す。</p> <p>1年目、2年目は洋裁訓練に特化し、3年目は職業開発庁が推奨するプロダクション・ユニットへと形態を移行させる。プロダクション・ユニットとは、修了生らが技術を向上させつつ継続して製品の開発、製作、販売活動を行うことができる場を意味し、3年次の1年間をかけてプロダクション・ユニットが機能することを試みる。同時に3年目は、1、2年目のTOTで育成した洋裁トレーナーが主体となって技術を教えることで、事業終了後は育成したトレーナーや修了生らにより、この職業訓練センターで本カリキュラムによる技術移転が継続して行われていくことも目標とする。</p> <p>また、1年目、2年目修了生の中で洋裁組合結成希望者グループにはミシンを委譲予定であり、プロダクション・ユニットのみならず、訓練生らの地元洋裁組合からも活動が広がっていくことも試みる。</p>
<p>(5) 期待される成果と成果を測る指標</p>	<p>■1年目・2年目</p> <p>成果 1 高度な洋裁技術を習得した人材が育成される</p> <p>指標 1-1 洋裁訓練終了時、修了生数が訓練生数合計の80%以上である。</p> <p>(訓練生数は1年目、2年目、各50名の予定で、各年8割以上の生徒が訓練を修了することを目標とする。)</p> <p>指標 1-2 期待されたレベルの洋裁技能を修了生の80%以上が達成している。</p> <p>(着実な技術習得に向け、定期的に洋裁技能習熟度テストを行う。技術習得レベルには個人差も予想されるため、必要に応じて補習などを行い、訓練生らを取りこぼされることなく、着実にスキルが定着することを目指す。)</p>

最終洋裁技能習得テストでは、5段階レベルの3以上を修了生の80%が達成することを目指す。）

成果 2 made in Rwanda 製品が開発される

指標 2-1 新規開発オリジナルアイテムが3アイテム以上。

（洋裁訓練開始 8 カ月頃より、ルワンダの生地を使った made in Rwanda 製品の開発に着手し、最低 3 アイテム以上の開発を目指す。）

指標 2-2 開発製品の評価が5段階評価レベルの4以上である。

（サンプル制作完了次第、カウンターパート、パートナー、ファッション関係者らと評価を行い、改善すべき点は改善し、よりよい製品開発を目指す。）

■ 3年目

成果 1 プロダクション・ユニットが設立される

指標 1 プロダクション・ユニットを通じた製作アイテム数が 10 アイテム以上である。

成果 2 プロダクション・ユニットを通じて製作された洋服がルワンダで販売される。

指標 2 販売場所、売上金額の記録

成果 3 洋裁技能レベルのさらなる向上

指標 3 洋裁技能習得テストでは、5段階レベルの4以上を修了生の80%が達成することを目指す。

直接裨益者数：約 100 名（洋裁訓練生）

間接裨益者数：100 名 × 4.4 名（1 家族平均数） × 親戚および隣人 10 名 = 4,400 名（訓練生家族・親戚・隣人）

上記合計裨益者数：首都キガリ住民約 4,500 名

（ここでページを区切ってください）